

1. グレンイーグルズ・プロセスの概要と気候変動に関する最近の動き

G8 グレンイーグルズサミット(気候変動関係)

◆ G8 グレンイーグルズ・サミット(2005年7月) < 気候変動が主要議題 >

科学についての認識の共有

- ・地球温暖化は現実の問題、人間活動が主因(米国も認める)
- ・世界レベルで排出量の増加を減速 抑制 減少させるための連携が必要

具体的な行動についての前進

- ・「グレンイーグルズ行動計画」の策定: 省エネ推進、地球観測等

新興経済諸国とのパートナーシップ

- ・G8及び新興経済諸国とのパートナーシップ強化へ向けた「対話」を開始

2008年のサミット(議長国:日本)において成果を報告

G8プロセスにおける気候変動への取組: 主要20ヶ国(G20)による対話

2005年のG8グレンイーグルズ・サミット(英国)

G8及び中国、インド等、主要20ヶ国(世界全体の排出量の約8割)及び世銀・IEAからなる気候変動の対話を開始。

2008年のG8日本サミットで結果を報告

G8気候変動、クリーンエネルギー及び持続可能な開発に関する対話(G20対話)

- ・第1回対話(2005年11月、於:ロンドン)
- ・第2回対話(2006年10月、於:メキシコ)
- ・次回会合は、ドイツ(G8議長国)で開催予定

2005年

7月 G8 英国サミット(グレンイーグルズ)

11月 第1回 対話(英国)

2006年

7月 G8 ロシア(サンクトペテルブルグ)サミット

10月 第2回 対話(メキシコ)

2007年

3月 G8 環境大臣会合(ドイツ)

6月 G8 ドイツ(ハイリゲンダム)サミット

秋 第3回 対話(ドイツ)

2008年

春 第4回 対話(日本)

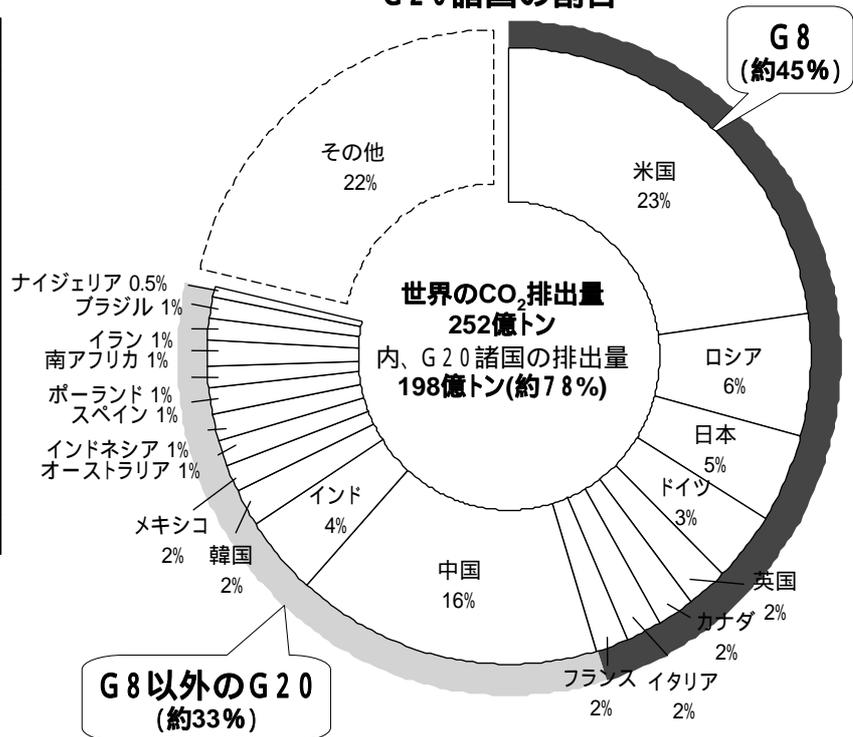
G8 気候変動プロセス

G8 日本サミット

“G20”諸国について

世界のCO₂排出量(2003年度)に占める
G20諸国の割合

G20諸国			
G8	米国	その他	中国
	ロシア		インド
	日本		韓国
	ドイツ		メキシコ
	英国		オーストラリア
	カナダ		インドネシア
	イタリア		スペイン
	フランス		ポーランド
	南アフリカ		
	イラン		
	ブラジル		
	ナイジェリア		



エネルギー・経済統計要覧より環境省作成
(一部、UNFCCCデータより補足)

気候変動の議論における最近の動き

気候変動の脅威に対する認識の広がり

- ・**英国ベケット外相**:「気候安全保障なくして、国家安全保障や経済的な安全保障を確保することは困難。気候が不安定化した場合、政府が国民に対し責任を負っている、経済発展、雇用、貿易、投資、移民、紛争、貧困削減、健康保護などの使命が十分果たせなくなる。」
- ・**アナン前国連事務総長**:「気候変動はあらゆる分野に対する脅威。」(後述) など
[報告書]
- ・**IPCC第4次評価報告書**:「人為起源の温室効果ガスの増加が温暖化の原因とほぼ断定」
- ・**スターン・レビュー**:「対策しないこと」のリスク・コストを経済的に分析。「今行動を起こせば、気候変動の最悪の影響を避けることができる」、「温暖化対策においては早期の行動が経済影響を小さくする」

政治的リーダーシップの強化を求める声

- ・**バン国連事務総長**:「気候変動は国連事務総長として、優先的に取り組む課題の一つ。」
- ・**デ・ブアUNFCCC事務局長**:「国連で各国首脳が気候変動について議論すべき。」
- ・**英国ブレア首相、ドイツ・メルケル首相**:「気候変動は重大な課題であり、全人類が取り組む必要。EU及びG8プロセスにおいて気候変動を優先度の高い議題として扱っていく。」